

幼児の遊びと親子のふれあい*

兼信英子・小野真弓**

Preschool Child's Play and Parent-Child Relation*

Eiko KANENOBU and Mayumi ONO**

緒 言

幼児期の教育は、人間の成長過程において重要であり、幼児期の生活体験が後に与える影響は大きい。幼児の遊びは生活そのものであり、幼児の遊びを理解することが幼児理解につながるというも過言ではない。一方、社会の変化・情報化が進み、テレビやマスコミによる影響や住宅事情による子どもの遊び場の喪失などにより、子どもが外で遊ばなくなったといわれている。幼児の遊びは幼児が成長していく上で大切であり、また、近年共働きの家庭が多くなり、親子のふれあいが少ないといわれている。

本研究ではそうした問題をふまえ、幼稚園に通う幼児の遊びと親子のふれあいの現状について明らかにすることを研究の目的とした。

幼児の遊びの概念については、J. ピアジェは、遊びの理論を説明するために今日までに主張されてきた基準について次のように6種¹⁾を数えている。1. 遊びはそれ自体で行動ではない。あるいは多くの活動の中の、ある一種の特殊なタイプの活動ではない。2. 遊びは自発的である。3. 遊びは快楽のための活動である。4. 遊びは組織的構成に欠けているが、『まじめ』な思考はいつも秩序立っているというのに対照されている。5. 遊びは、コンフリクト（葛藤）からの解放である。6. 遊びは最初の行動に包含されないが刺激（感情）が、包含されてくるときにはじまるもので、そしてこの附加感情がすべての遊びの特質だということになる。

フレーベルは、「遊戯は、幼児期の段階における子どもの最も純粋な精神的生産であり、また、同時に、人間生活全般の模範ともいべきものである。遊戯とは、子どもが自己の内面を自ら自由に表現したもの、自己の内面的本質の必要と要求とにに応じて、内面を外に現したものである」²⁾と述べている。

ロジェ・カイヨワは、「遊びは自由で任意の活動であり、喜びと楽しみの源であるという定義に問題はない。参加するように強要されれば遊びは、遊びであることをやめてしまう。また、遊びは、本質上、生活の他から切り離され、慎重に区別された活動であり、通常、時間および空間の厳密な限界の内部で完了する活動である。」³⁾と述べている。などのさまざまなとらえ方がある。

ここでは、「幼児の遊びは、幼児の基本的生活習慣の形成に使われる時間を除いた生活の中で最も大きな割合を占めるものであり、心身を発達させ、生活をより豊かに発展させていくための自発的な活動である」と捉え、今回は国立と私立の幼稚園に通う幼児の遊びと親子のふれあいについて、その実態を比較検討した。

* 日本家庭科教育学会第32回京都市社会教育総合センター（1989. 6.18）において発表した

** 大分県南海郡本匠村立本匠東小学校

方 法

調査対象は、熊本市内の幼稚園5園を選び、5歳の国立の幼稚園児64名（男子32，女子32）と私立の幼稚園児216名（男子106，女子110）の計280名である。調査期間は、昭和63年9月～10月である。調査内容・方法は、「幼児の遊び」・「親子のふれあい」・「幼児への期待像」に関して質問紙による調査を行い、用紙の記入は保護者をお願いした。有効回収率は国立100%，私立84.0%である。

結果と考察

1. 幼児の遊び

(1) 降園後の遊び

『遊ぶ人数』の結果を表1に示す。全体からみると、「2～3人」が73.6%と最も多く、次いで「4～5人」が16.8%であることから、幼児たちは2～3人の小集団で遊んでいるのが多い。深谷昌志の調査結果によれば、小学4～6年生の遊ぶ人数は、自分を含めて「2人，3～4人」というのが全体の8割近くを占めており⁴⁾、5歳児の場合とほぼ同様の結果を示している。したがって、幼児が「2～3人」という小集団で遊んでいるという結果は、対象が幼児であるという年齢的な条件に限らず、やはり遊び集団の少人数化は現代の子ども全体にみられる傾向であるといえよう。幼稚園別にみると、国立の幼稚園の男子は一人遊びが2割おり、私立の幼稚園児は4～5人で遊ぶのが男女とも2割近くを占めている。国立・私立間に1%の危険率で有意差が認められ、私立の園児の方が多くの友達と遊んでいるといえる。

『遊ぶ相手の関係』の結果を表2に示す。全体からみると「同幼稚園の友達」が67.1%、「きょうだい」も40.7%と多いことから、幼児は同じ幼稚園の友達やきょうだいという身近な相手と遊び交友関係はまだ狭いことがわかる。幼稚園別にみると、「同幼稚園の友達」は私立が74.5%に対し、国立は42.2%と約4割にとどまり、ここでも国立・私立間に1%の危険率で有意差が認められた。国

表1 遊ぶ人数（含本人）

	人 (%)					合計
幼稚園・性別	1人	2～3人	4～5人	5人以上	無答	
国立	10(15.6)	47(73.5)	7(10.9)	0	0	64
私立	8(3.7)	159(73.6)	40(18.5)	9(4.2)	0	216
男子	10(7.2)	100(72.5)	24(17.4)	4(2.9)	0	138
女子	8(5.6)	106(74.7)	23(16.2)	5(3.5)	0	142
国立 男子	7(21.9)	21(65.6)	4(12.5)	0	0	32
女子	3(9.4)	26(81.2)	3(9.4)	0	0	32
私立 男子	3(2.8)	79(74.5)	20(18.9)	4(3.8)	0	106
女子	5(4.6)	80(72.7)	20(18.1)	5(4.6)	0	110
合計	18(6.4)	206(73.6)	47(16.8)	9(3.2)	0	280

χ^2 検定 ** $p < .01$

表2 遊ぶ相手の関係 (複数回答) 人(%)

幼稚園・性別	きょうだい	きょうだいの友達	同幼稚園の友達	同園以外の近所の友達	その他
国立	27(42.2)	3(4.7)	27(42.2)	29(45.3)	1(1.6)
私立	87(40.3)	22(10.2)	161(74.5)	45(20.8)	5(2.3)
男子	59(42.8)	11(8.0)	95(68.3)	33(23.9)	3(2.2)
女子	55(38.7)	14(9.9)	93(65.5)	41(28.9)	3(2.1)
国立 男子	17(53.1)	2(6.3)	14(43.8)	13(40.6)	1(3.1)
女子	10(31.3)	1(3.2)	13(40.6)	16(50.0)	0
私立 男子	42(39.6)	9(8.5)	81(76.4)	20(18.9)	2(1.9)
女子	45(40.9)	13(11.8)	80(72.7)	25(22.7)	3(2.7)
合計	114(40.7)	25(8.9)	188(67.1)	74(26.4)	6(2.1)
χ^2 検定	** $p < .01$				

表3 遊ぶ時間 人(%)

幼稚園・性別	1～2時間	2～3時間	3～5時間	5時間以上	無答	合計
国立	5(7.8)	28(43.8)	27(42.2)	4(6.2)	0	64
私立	25(11.6)	118(54.6)	68(31.5)	4(1.8)	1(0.5)	216
男子	13(9.4)	72(52.2)	47(34.1)	5(3.6)	1(0.7)	138
女子	17(12.0)	74(52.1)	48(33.8)	3(2.1)	0	142
国立 男子	1(3.1)	12(37.5)	16(50.0)	3(9.4)	0	32
女子	4(12.5)	16(50.0)	11(34.4)	1(3.1)	0	32
私立 男子	12(11.3)	60(56.6)	31(29.3)	2(1.9)	1(0.9)	106
女子	13(11.8)	58(52.7)	37(33.7)	2(1.8)	0	110
合計	30(10.7)	146(52.1)	95(33.9)	8(2.9)	1(0.4)	280
χ^2 検定	ns					

立の幼稚園児は、私立に比べ近所に同幼稚園の友達が少ないので同幼稚園以外の友達と遊んでいる。以上2つの結果から、国立の幼稚園児のように近くに同じ幼稚園に通う友達が少ないと一人遊びが増え、私立の幼稚園児は同幼稚園の多くの友達と遊んでいることがわかった。近所に遊び相手がいることも、幼児の遊びの大切な条件であるといえる。

『遊ぶ時間』の結果を表3に示す。全体からみると平日は「2～3時間」が最も多く52.1%と過半数を占め、「3～5時間」の33.9%を合わせると9割近くの幼児は、3時間前後遊んでいる。「1～2時間」と答えたのは10.7%と約1割であった。最近の子どもは遊ばなくなったといわれているが、今回の調査から幼児の遊び時間には大きな問題はみられなかった。

『友達の家へ遊びに行く距離』の結果を表4に示す。全体からみると「0.5km以内」が58.9%と

表4 友達の家へ遊びに行く距離

幼稚園・性別	距離					人 (%)	
	0.5km以内	0.5～1 km	1～2 km	2 km以上	無答	合計	
国立	32(50.0)	8(12.5)	14(21.9)	8(12.5)	2(3.1)	64	**
私立	133(61.6)	68(31.5)	9(4.2)	1(0.4)	5(2.3)	216	
男子	79(57.2)	40(29.0)	11(8.0)	5(3.6)	3(2.2)	138	
女子	86(60.6)	36(25.4)	12(8.4)	4(2.8)	4(2.8)	142	
国立 男子	15(46.9)	5(15.6)	5(15.6)	5(15.6)	2(6.3)	32	
女子	17(53.1)	3(9.4)	9(28.1)	3(9.4)	0	32	
私立 男子	64(60.4)	35(33.0)	6(5.7)	0	1(0.9)	106	
女子	69(62.8)	33(30.3)	3(2.7)	1(0.9)	4(3.6)	110	
合計	165(58.9)	76(27.2)	23(8.2)	9(3.2)	7(2.5)	280	

χ^2 検定 ** $p < .01$

表5 室内・室外での遊びの状況

幼稚園・性別	状況				人 (%)	
	室内	室外	同じくらい	無答	合計	
国立	23(35.9)	20(31.3)	21(32.8)	0	64	**
私立	30(13.9)	120(55.6)	62(28.7)	4(1.8)	216	
男子	22(15.9)	75(54.4)	38(27.5)	3(2.2)	138	
女子	31(21.8)	65(45.8)	45(31.7)	1(0.7)	142	
国立 男子	10(31.2)	8(25.0)	14(43.8)	0	32	
女子	13(40.6)	12(37.5)	7(21.9)	0	32	
私立 男子	12(11.3)	67(63.2)	24(22.7)	3(2.8)	106	
女子	18(16.4)	53(48.2)	38(34.5)	1(0.9)	110	
合計	53(18.9)	140(50.0)	83(29.7)	4(1.4)	280	

χ^2 検定 ** $p < .01$

過半数を占め、「0.5～1 km」の27.2%を合わせると8割以上の幼児は1 km以内の近所の友達の家へ遊びに行っている。幼稚園別にみると、私立では、「0.5km以内」が61.6%、「0.5～1 km」が31.5%で、合わせて93.1%とほとんどの幼児が1 km以内であるのに対し、国立では「0.5km以内」の50.0%に次いで「1～2 km」が21.9%で、「2 km以上」の幼児は12.5%もあり、国立・私立間に1%の危険率で有意差が認められた。私立より国立の幼稚園児の方が遠くへ遊びに行っているのは、近所に同じ幼稚園に通っている友達が少ないからだといえる。

『室内・室外での遊びの状況』の結果を表5に示す。全体からみると「室外で遊ぶことが多い」と答えた幼児は50.0%と半数で、「室内で遊ぶことが多い」と答えた幼児は18.9%と2割に満たなかった。安全に遊べる遊び場がないという親の意見も多く聞かれるように、昔に比べ遊び場が少な

くなり、外で遊ぶ幼児の姿も減少の傾向にある。しかし、そのような背景を考慮にいれて考えると、幼児たちはそうした状況の中で工夫して比較的外で遊んでいるといえる。幼稚園別にみると、私立では「室外」が55.6%と多く、「室内」はわずか13.9%であり、幼児は外でよく遊んでいる。一方、国立では「室外」が31.3%に対して、「室内」は35.9%と室外よりも室内で遊ぶ幼児の方が多いという結果が得られ、幼稚園間に1%の危険率で有意差が認められた。性別にみると、若干女子より男子の方が室外で遊んでいるようだが、男女間に有意差は認められなかった。

(2) 幼児の遊びの種類と遊び方

『幼児の好きな遊び』の結果を表6に示す。全体からみると5歳児の特徴として「自転車等の乗り物遊び」は46.4%であり、「お絵描き」が43.6%とそれぞれ半数近くを占め、他の遊びより圧倒的に多かった。次いで、「人形・ぬいぐるみ遊び」は27.5%であり、「砂遊び」が26.8%、「ままごと遊び」は26.1%、ブロックや絵本、ファミコン、ボール、テレビ、室内ゲーム等でも遊んでいる。一方「ぶらんこ」、「すべり台」、「鬼ごっこ」、「かくれんぼ」は1割にも満たなかった。「積み木遊び」は特に少なくわずか0.7%であり、積み木をよりおもしろく商品化したブロックの方に人気が移ったためであろう。「ファミコン遊び」は16項目中8番目に多く、社会の変化は幼児の遊びにも影響を及ぼしているといえる。園別でみると、私立より国立が多く有意差が認められた。性別にみると、テレビ、ゲーム、ファミコン、ブロック、ボール、人形・ぬいぐるみ、お絵描き、ままごと遊びは1%の危険率で、乗り物遊びは5%の危険率で男女間に有意差が認められた。男子は、テレビ、ゲーム、ファミコン、ブロック、ボール、自転車等の乗り物を好み、女子は、人形・ぬいぐるみ、お絵描き、ままごとを好んで遊んでおり、幼児の好きな遊びは男女間に違いがあるといえる。

『遊ぶ人数と遊び方』の結果を表7に示す。「テレビを見る遊び」は、遊ぶ人数が「1人」、「2～3人」、「4人以上」と増加するにしたがって、33.3%、16.5%、8.9%と減少しており、逆に「砂遊び」は人数の増加に伴い、5.6%、25.2%、39.3%と増加しており、共に5%の危険率で有意差が認められた。他に、人数の増加に伴って減少しているのは、「ファミコン遊び」、「絵本を見る遊び」、「お絵描き」で、逆に増加しているのは、「ままごと遊び」、「乗り物遊び」、「ボール遊び」である。遊ぶ人数が増えるに伴いままごとや乗り物、砂、ボール等で遊び、一人遊びが多い幼児ほどテレビやファミコン、絵本、お絵描き等で遊んでいることが明らかになった。したがって、遊ぶ人数と遊び方との間には関連性があるといえ、テレビやファミコン等に夢中になりすぎると友達との遊びの減少につながるということがわかった。

『おもちゃの所有状況』の結果を表8に示す。最も所有状況の高いのは「絵本」で、98.6%とほぼ全員が持っている。次いでお絵描き道具、ボール、ブロック、人形・ぬいぐるみ、乗り物の順で8割以上の幼児が持っている。その他いずれもおもちゃの所有の割合は高く、半数に満たなかったのはファミコンの47.5%のみであった。深谷昌志の調査結果によれば、小学4～6年生のファミコン所有率は77%で全体の4分の3にも達している⁵⁾。しかし、幼児期という発達段階から考えるとこの数値はかなり大きく、ファミコンの急速な普及化がみられ幼児たちはたくさんのおもちゃを所有しており、ここにも物の豊富な反映が現れている。

2. 親子のふれあい

(1) 幼稚園への送迎の際の言葉かけ

『送る時の言葉かけ』の結果を表9に示す。全体からみると「行ってらっしゃい」が98.6%と最も多く、ほとんどの親がその言葉をかけていることがわかる。しかし、それ以外の言葉は「今日はどんなことをするの?」が11.4%、「友達と仲良く遊ぶのよ」は19.3%、「先生の言うことをよくき

表6 幼児の好きな遊び

幼稚園 ・性別	人形・ぬい ぐるみ遊び	テレビを 見る遊び	室内ゲーム 遊び	ファミコン 遊び	絵本を見 て遊ぶ	お絵描き	積み木 遊び
国立	13(20.3)	9(14.1)	10(15.6)	18(28.1)	15(23.4)	26(40.6)	1(1.6)
私立	64(29.6)	36(16.7)	30(13.9)	34(15.7)	40(18.5)	96(44.4)	1(0.5)
男子	7(5.1)	35(25.4)	28(20.3)	49(35.5)	22(15.9)	27(19.6)	1(0.7)
女子	70(49.3)	10(7.0)	12(8.5)	3(2.1)	33(23.2)	95(66.9)	1(0.7)
国立 男子	0	9(28.1)	7(21.9)	16(50.0)	8(25.0)	5(15.6)	0
女子	13(40.6)	0	3(9.4)	2(6.3)	7(21.9)	21(65.6)	1(3.1)
私立 男子	7(6.6)	26(24.5)	21(19.8)	33(19.8)	14(13.2)	22(20.8)	1(0.9)
女子	57(51.8)	10(9.1)	9(8.2)	1(0.9)	26(23.6)	74(67.3)	0
合計	77(27.5)	45(16.1)	40(14.3)	52(18.6)	55(19.6)	122(43.6)	2(0.7)

χ^2 検定 * $p < .05$, ** $p < .01$

表7 遊ぶ人数と遊び方

遊ぶ人数	人形・ぬい ぐるみ遊び	テレビを 見る遊び	室内ゲーム 遊び	ファミコン 遊び	絵本を見 て遊ぶ	お絵描き	積み木 遊び
1 人	4(22.2)	6(33.3)	3(16.7)	4(22.2)	4(22.2)	11(61.0)	0
2~3人	62(30.1)	34(16.5)	26(12.6)	41(19.9)	43(20.9)	91(44.2)	2(1.0)
4人以上	11(19.6)	5(8.9)	11(19.6)	7(12.5)	8(14.3)	20(35.7)	0
合計	77(27.5)	45(16.1)	40(14.3)	52(18.6)	55(19.6)	122(43.6)	2(0.7)

χ^2 検定 * $p < .05$

表8 おもちゃの所有状況

性別	人形・ぬいぐるみ	室内ゲーム	ファミコン	絵本	積み木
男子	104(75.4)	106(76.8)	77(55.8)	136(98.6)	107(77.5)
女子	140(98.6)	117(82.4)	56(39.4)	140(98.6)	99(69.7)
合計	244(87.1)	223(79.6)	133(47.5)	276(98.6)	206(73.6)

χ^2 検定 * $p < .05$, ** $p < .01$

(複数回答) 人 (%)

ブロック遊び	ままごと遊び	自転車等の乗り物遊び	砂遊び	ぶらんこ遊び	すべり台遊び	鬼ごっこ遊び	かくれんぼ遊び	ボール遊び
10(15.6)	19(29.7)	27(42.2)	6(9.4)	6(9.4)	0	6(9.4)	6(9.4)	17(26.6)
48(22.2)	54(25.0)	103(47.7)	69(31.9)	19(8.8)	4(1.9)	4(1.9)	9(4.2)	31(14.4)
56(40.6)	0	78(56.5)	37(26.8)	8(5.8)	2(1.4)	7(5.1)	7(5.1)	44(31.9)
2(1.4)	73(51.4)	52(36.6)	38(26.8)	17(12.0)	2(1.4)	3(2.1)	8(5.6)	4(2.8)
10(31.3)	0	14(43.8)	3(9.4)	0	0	4(12.5)	3(9.4)	15(46.9)
0	19(59.4)	13(40.6)	3(9.4)	6(18.8)	0	2(6.3)	3(9.4)	2(6.3)
46(43.4)	0	64(60.4)	34(32.1)	8(7.5)	2(1.9)	3(2.8)	4(3.8)	29(27.4)
2(1.8)	54(49.1)	39(35.5)	35(31.8)	11(10.0)	2(1.8)	1(0.9)	5(4.5)	2(1.8)
58(20.7)	73(26.1)	130(46.4)	75(26.8)	25(8.9)	4(1.4)	10(3.6)	15(5.4)	48(17.1)

(複数回答) 人 (%)

ブロック遊び	ままごと遊び	自転車等の乗り物遊び	砂遊び	ぶらんこ遊び	すべり台遊び	鬼ごっこ遊び	かくれんぼ遊び	ボール遊び
6(33.3)	4(22.2)	7(38.9)	1(5.6)	1(5.6)	0	1(5.6)	1(5.6)	1(5.6)
39(18.9)	53(25.7)	91(44.2)	52(25.2)	22(10.7)	3(1.5)	4(1.9)	12(5.8)	36(17.5)
13(23.2)	16(28.6)	32(57.1)	22(39.3)	2(3.6)	1(1.8)	5(8.9)	2(3.6)	11(19.6)
58(20.7)	73(26.1)	130(46.4)	75(26.8)	25(8.9)	4(1.4)	10(3.6)	15(5.4)	48(17.1)

(複数回答) 人 (%)

ブロック	ままごと道具	電池式おもちゃ	お絵描き道具	ボール	乗り物
129(93.5)	59(42.8)	113(81.9)	124(89.9)	128(92.8)	128(92.8)
118(83.1)	125(88.0)	76(53.5)	140(98.6)	125(88.0)	111(78.2)
247(88.2)	184(65.7)	189(67.5)	264(94.3)	253(90.4)	239(85.4)

くのよ」は、8.9%といずれも低く2割にも満たない。また、「特に何も言わない」は6.4%と最も低く、国立、私立間に5%の危険率で有意差が認められた。これらのことから、親は子どもに何らかの形で言葉をかけているといえる。

『迎える時の言葉かけ』の結果を表10に示す。全体からみると「お帰りなさい」が92.5%と最も多く、大部分の親がその言葉をかけていることがわかる。つづいて、「今日はどんなことをしたの？」が66.4%と多く、子どもが幼稚園で一日どんなことをしたのかという様子を尋ねていること

表9 送る時の言葉かけ (複数回答) 人 (%)

幼稚園・性別	行って らっしゃい	今日はどんな ことをするの	友達と仲良く 遊ぶのよ	先生の言うこと をよくきくのよ	特に何も 言わない
国立	62(96.9)	10(15.6)	10(15.6)	7(10.9)	8(12.5)*
私立	214(99.1)	22(10.2)	44(20.4)	18(8.3)	10(4.6)
男子	136(98.6)	18(13.0)	25(18.1)	14(10.1)	10(7.2)
女子	140(98.6)	14(9.9)	29(20.4)	11(7.7)	8(5.6)
国立 男子	31(96.9)	5(15.6)	4(12.5)	4(12.5)	7(21.9)
女子	31(96.9)	5(15.6)	6(18.8)	3(9.4)	1(3.1)
私立 男子	105(99.1)	13(12.3)	21(19.8)	10(9.4)	3(9.4)
女子	109(99.1)	9(8.2)	23(20.9)	8(7.3)	7(6.4)
合計	276(98.6)	32(11.4)	54(19.3)	25(8.9)	18(6.4)
χ^2 検定	* $p < .05$				

表10 迎える時の言葉かけ (複数回答) 人 (%)

幼稚園・性別	お帰り なさい	今日はどんな ことをしたの	よい子に してた?	誰と 遊んだの?	特に何も 言わない
国立	51(79.7)**	47(73.4)	2(3.1)	22(34.4)	5(7.8)*
私立	208(96.3)	139(64.4)	3(1.4)	44(20.4)	3(1.4)
男子	126(91.3)	93(67.4)	3(2.2)	31(22.5)	6(4.3)
女子	133(93.7)	93(65.5)	2(1.4)	35(24.6)	2(1.4)
国立 男子	25(78.1)	25(78.1)	1(3.1)	10(31.3)	4(12.5)
女子	26(81.3)	22(68.8)	1(3.1)	12(37.5)	1(3.1)
私立 男子	101(95.3)	68(64.2)	2(1.9)	21(19.8)	2(1.9)
女子	107(97.3)	71(64.5)	1(0.9)	23(20.9)	1(0.9)
合計	259(92.5)	186(66.4)	5(1.8)	66(23.6)	8(2.9)
χ^2 検定	* $p < .05$, ** $p < .01$				

がわかる。他は、「誰と遊んだの?」が23.6%と約2割で少なく、親は幼稚園の遊び友達への関心はあまりないようだ。「よい子にした?」は1.8%でほとんどいなかった。また、「特に何も言わない」は2.9%で、送る時よりさらに少ない数値となっている。

こうした言葉かけの中で最も大切なのは、「今日はどんなことをするの?」または「したの?」等、子どもの幼稚園での様子を尋ねるものである。幼児の生活の中で、幼児が完全に親から隔離されているのは幼稚園にいる間だけである。したがって、親は子どもが幼稚園でどのようなことをしているのかを知る必要があり、子どもも幼稚園で一日どんなことをしたのかを親に話すことで、自分の一日の行動を振り返り、自己を認識し、確立していくのである。また、幼稚園での生活について親子で対話することは、親子のふれあいという観点からも重要である。

(2) 日常の親子のふれあいの状況

『平日の親子のふれあい』の結果を表11に示す。全体からみると父親は、「ほとんど遊ばない」が39.3%と最も多く約4割を占めている。次いで、「あまり遊ばない」は28.6%、「時々遊ぶ」は24.6%、「よく遊んでいる」はわずか4.3%で階段状になっており、「遊ばない」から「よく遊ぶ」となるに従い減少している。一方、母親は「時々遊んでいる」が59.6%と最も多く約6割を占めている。つづいて、「あまり遊ばない」は20.7%で約2割を、「よく遊んでいる」は13.9%と1割強を占めている。また、「ほとんど遊ばない」は4.3%とわずかである。平日は、父親は子どもとはあまり遊んでおらず、母親は時々遊んでいるというのが現状であり、父親より母親の方が子どもと遊んでいることがわかる。

『休日の親子のふれあい』を表12に示す。全体からみると父親は、平日とはかなり異なった結果が得られた。「時々遊んでいる」が47.2%と多く約5割を占め、次いで「よく遊んでいる」が41.4%と約4割を占めている。一方、母親が最も多かったのは平日と同様「時々遊んでいる」で、56.8%

表11 平日の親子のふれあい

						人 (%)
両親・幼稚園	よく遊ぶ	時々遊ぶ	あまり遊ばない	ほとんど遊ばない	無答	合計
父親：国立	3(4.7)	12(18.7)	17(26.6)	30(46.9)	2(3.1)	64
私立	9(4.2)	57(26.4)	63(29.2)	80(37.0)	7(3.2)	216
合計	12(4.3)	69(24.6)	80(28.6)	110(39.3)	9(3.2)	280
母親：国立	8(12.5)	38(59.4)	17(26.6)	0	1(1.5)	64
私立	31(14.3)	129(59.7)	41(19.0)	12(5.6)	3(1.4)	216
合計	39(13.9)	167(59.6)	58(20.7)	12(4.3)	4(1.4)	280

χ^2 検定 ns

表12 休日の親子のふれあい

						人 (%)
両親・幼稚園	よく遊ぶ	時々遊ぶ	あまり遊ばない	ほとんど遊ばない	無答	合計
父親：国立	26(40.6)	33(51.5)	3(4.7)	1(1.6)	1(1.6)	64
私立	90(41.7)	99(45.8)	16(7.4)	6(2.8)	5(2.3)	216
合計	116(41.4)	132(47.2)	19(6.8)	7(2.5)	6(2.1)	280
母親：国立	17(26.5)	37(57.8)	8(12.5)	1(1.6)	1(1.6)	64
私立	71(32.9)	122(56.5)	17(7.9)	2(0.9)	4(1.8)	216
合計	88(31.4)	159(56.8)	25(8.9)	3(1.1)	5(1.8)	280

χ^2 検定 ns

と過半数を占めている。しかし、つづいて平日では「あまり遊ばない」が多かったのに代わって、休日では「よく遊ぶ」が多く31.4%と約3割を占めていた。休日子どもと「よく遊ぶ」のは、母親より父親の方が多く、これは平日のふれあいが少ないのを取り戻す努力をしているのではないかといえる。「時々遊ぶ」を加えると、8割以上の父母が親子のふれあいをもっていることがわかった。

『子どもと一緒にいる時間が最も多い人』の結果を表13に示す。全体からみると圧倒的に「母親」が多く、96.1%であった。それ以外は「祖母」や「知人」であるが、「祖母」は3.6%、「知人は」は0.3%とわずかである。また、「父親」や「祖父」と答えた人は一人もいなかった。ほとんどの子どもが母親といる時間が最も多いことが明らかになり、幼児にとって母親の存在は大きいといえる。

『母親の職業の有無と親子のふれあい』の結果を表14に示す。平日についてみると、無職、パートタイム、フルタイムの母親とも最も多いのは「時々遊ぶ」で、順に58.7%、71.0%、54.2%である。次いで「あまり遊ばない」が多く、順に19.5%、19.4%、20.8%、である。休日は、「時々遊

表13 子どもと一緒にいる時間が最も多い人

幼稚園・性別	人 (%)					合計
	父親	母親	祖父	祖母	知人	
国立	0	63(98.4)	0	1(1.6)	0	64
私立	0	206(95.4)	0	9(4.2)	1(0.4)	216
男子	0	130(94.2)	0	7(5.1)	1(0.7)	138
女子	0	139(97.9)	0	3(2.1)	0	142
国立 男子	0	31(96.9)	0	1(3.1)	0	32
女子	0	32(100.0)	0	0	0	32
私立 男子	0	99(93.4)	0	6(5.7)	1(0.9)	106
女子	0	107(97.3)	0	3(2.7)	0	110
合計	0	296(96.1)	0	10(3.6)	1(0.3)	280
χ^2 検定	ns					

表14 母親の職業の有無と親子のふれあい

職業	人 (%)					合計
	よく遊ぶ	時々遊ぶ	あまり遊ばない	ほとんど遊ばない	無答	
平日：無職	36(16.0)	132(58.7)	44(19.5)	9(4.0)	4(1.8)	225
パートタイム	1(3.2)	22(71.0)	6(19.4)	1(3.2)	1(3.2)	31
フルタイム	2(8.3)	13(54.2)	5(20.8)	3(12.5)	1(4.2)	24
合計	39(13.9)	167(59.7)	55(19.7)	13(4.6)	6(2.1)	280
母親：無職	71(31.6)	126(56.0)	21(9.3)	3(1.3)	4(1.8)	225
パートタイム	9(29.0)	20(64.5)	2(6.5)	0	0	31
フルタイム	7(29.1)	15(62.5)	1(4.2)	1(4.2)	0	24
合計	87(31.1)	161(57.5)	24(8.6)	4(1.4)	4(1.4)	280
χ^2 検定	ns					

ぶ」が順に56.0%, 64.5%, 62.5%であり、次いで「よく遊ぶ」が31.6%, 29.0%, 29.1%である。平日、休日ともに、母親が無職、パートタイム、フルタイムの場合ともほぼ同じ傾向を示し、有意差は認められなかった。母親の職業の有無と親子のふれあいはあまり関連がないといえ、職をもった母親でも、幼児とふれあう機会を多くもつように努力しているのがわかる。

『父親が日常子どもと一緒にする行為』の結果を表15に示す。多い順に示すと、「団らん・おしゃべり」は72.1%、「ドライブ」は67.1%、「食事」は61.4%、「テレビ視聴」は60.7%、「入浴」は60.4%であり、いずれも6割以上を占めている。「ドライブ」を除けば、これらは日常生活の一部である。父親は、仕事を終えて家に帰ってから、子どもと一緒にしゃべりやドライブをしたり、食事や入浴をしたり、テレビを見たりしている。割合からみると、子どもと団らんやおしゃべり及びドライブをしているのは約7割、食事しているのは約6割であり、やや少ない。子どもとの食事や団らんは、親子のふれあいとして大変重要であるので、父親はもっと子どもと一緒に食事や団らんをすることが望まれる。「炊事」、「洗濯」、「掃除・かたづけ」等の家事的なことや、「勉強」、「おけいこ事」等の学習的なことは1割以下で低く、ほとんど一緒にしていないことがわかった。

『母親が日常子どもと一緒にする行為』の結果を表16に示す。多い順に示すと、「団らん・おしゃべり」は93.2%、「食事」は87.5%と約9割という高い割合を示し、「買い物」は82.1%、「入浴」は71.8%、「読書」は67.9%、「テレビ視聴」は62.5%である。父親の「ドライブ」と母親の「読書」を除けば、多かった項目は父親と同様である。しかし、父親と母親とを比べると「団らん・おしゃべり」は父親が72.1%に対して母親は93.2%であり、「食事」は父親が61.4%に対して母親は87.5%と母親の方が2割以上も高い割合を示し、「入浴」についても、父親が60.4%に対して母親は71.8%と1割の高い割合を示した。やはり、父親より母親の方が親子のふれあいが多いいえる。次いで母親は、「掃除・かたづけ」が多く58.2%と約6割を占め、父親の4.6%に比べ大きな差がみられた。あとはいずれも4割以下で少ないが、これ以外で母親と父親に差がみられたのは、「ドライブ」、「おけいこ事」である。「ドライブ」は父親67.1%に対し母親が34.3%、「おけいこ事」は父親が1.1%に対し、母親は35.7%と3割以上の差がある。「ドライブ」は父親の方が、「おけいこ事」では母親の方が子どもと一緒にしていることがわかる。他は、父親とほぼ同じ割合であり、「炊事」は31.4%、「洗濯」も7.5%で父親と同様に低い。

以上のことから、最近では核家族化され、親子のふれあいが少ないといわれているが、今回の調査では、母親と幼児のふれあいは多いことがわかった。父親も努力している結果がみられるが、幼児との食事や団らん等はやや少なく、今後は、父親と幼児とのふれあいをできるだけ多く持てることが望まれる。

3. 幼児への期待像

『親の幼児への期待像』の結果を表17に示す。26項目のうち「思いやりのある子」が圧倒的に多く、89.6%と約9割を占めた。つづいて多かったものを順に示すと、「素直な子」は56.8%、「明るい子」は52.5%、「責任感のある子」は52.1%で、これらは過半数を占めている。また、「友達の多い子」は38.6%、「礼儀正しい子」は35.7%、「情操豊かな子」は26.8%とつづき、「向上心のある子」は22.5%、「積極的な子」は18.9%、「独立心のある子」は18.6%とそれぞれ約2割を占めていた。占める割合は項目によってかなり偏りがみられ、以上、述べたものの他に「活発な子」、「他人に左右されない子」、「探求心の旺盛な子」、「男(女)らしい子」、「協調的な子」は約1割であり、「自己主張の強い子」、「勉強のできる子」、「おとなしい子」は1割以下で、いずれも低い結果を示している。

表15 父親が日常子どもと一緒にする行為

幼稚園・性別	散歩	ドライブ	買い物	ファミコン	室内遊び	テレビ	外での遊び	炊事
国立	13(20.3)	40(62.5)	12(18.8)	8(12.5)	24(37.5)	38(59.4)	23(35.9)	0
私立	56(25.9)	148(68.5)	60(27.8)	24(11.1)	80(37.0)	132(61.1)	80(37.0)	1(0.5)
男子	33(23.9)	96(69.6)	33(23.9)	21(15.2)	61(44.2)	83(60.1)	61(44.2)	1(0.7)
女子	36(25.4)	92(64.8)	39(27.5)	11(7.7)	43(30.3)	87(61.3)	43(30.3)	0
国立 男子	5(15.6)	22(68.8)	6(18.8)	4(12.5)	17(53.1)	18(56.2)	14(43.8)	0
女子	8(25.0)	18(56.2)	6(18.8)	4(12.5)	7(21.9)	20(62.5)	9(28.1)	0
私立 男子	28(26.4)	74(69.8)	27(25.5)	17(16.0)	44(41.5)	65(61.3)	44(41.5)	1(0.9)
女子	28(25.5)	74(67.3)	33(30.3)	7(6.4)	36(32.7)	67(60.9)	36(32.7)	0
合計	69(24.6)	188(67.1)	72(25.7)	32(11.4)	104(37.1)	170(60.7)	104(37.1)	1(0.4)

χ^2 検定 * $p < .05$, ** $p < .01$

表16 母親が日常子どもと一緒にする行為

幼稚園・性別	散歩	ドライブ	買い物	ファミコン	室内遊び	テレビ	外での遊び	炊事
国立	23(35.9)	18(28.1)	53(82.8)	4(6.3)	30(46.9)	36(56.3)	20(31.3)	19(29.7)
私立	63(29.2)	78(36.1)	177(81.9)	10(4.6)	80(37.0)	139(64.4)	68(31.5)	45(20.8)
男子	35(25.4)	43(31.2)	106(76.8)	9(6.5)	55(39.9)	84(60.9)	41(29.7)	24(17.4)
女子	51(35.9)	53(37.3)	124(87.3)	5(3.5)	55(38.7)	91(64.1)	47(33.1)	40(28.2)
国立 男子	10(31.3)	9(28.1)	24(75.0)	1(3.1)	13(40.6)	15(46.9)	9(28.1)	6(18.8)
女子	13(40.6)	9(28.1)	29(90.6)	3(9.4)	17(53.1)	21(65.6)	11(34.4)	13(40.6)
私立 男子	25(23.6)	34(32.1)	82(77.4)	8(7.5)	42(39.6)	69(65.1)	32(30.2)	18(17.0)
女子	38(34.5)	44(40.0)	95(86.4)	2(1.8)	38(34.5)	70(63.6)	36(32.7)	27(24.5)
合計	86(30.7)	96(34.3)	230(82.1)	14(5.0)	110(39.3)	175(62.5)	88(31.4)	64(31.4)

χ^2 検定 * $p < .05$

(複数回答) 人 (%)							
洗濯	掃除・かたづけ	食事	団らん・おしゃべり	入浴	読書	おけいこ事	勉強
0	5(7.8)	44(68.8)	51(79.7)	39(60.9)	13(20.3)	1(1.6)	6(9.4)
2(0.9)	8(3.7)	128(59.3)	151(69.9)	130(60.2)	44(20.4)	2(0.9)	17(7.9)
1(0.7)	6(4.3)	77(55.8)	98(71.0)	86(62.3)	26(18.8)	0	9(6.5)
1(0.7)	7(4.9)	95(66.9)	104(73.2)	83(58.5)	31(21.8)	3(2.1)	14(9.9)
0	3(9.4)	19(59.4)	25(78.1)	22(68.8)	5(15.6)	0	4(12.5)
0	2(6.3)	25(78.1)	26(81.3)	17(53.1)	8(25.0)	1(3.1)	2(6.3)
1(0.9)	3(2.8)	58(54.7)	73(68.9)	64(60.4)	21(19.8)	0	5(4.7)
1(0.9)	5(4.5)	70(63.6)	78(70.9)	66(60.0)	23(20.9)	2(1.8)	12(10.9)
2(0.7)	13(4.6)	172(61.4)	202(72.1)	169(60.4)	57(20.4)	3(1.1)	23(8.2)

(複数回答) 人 (%)							
洗濯	掃除・かたづけ	食事	団らん・おしゃべり	入浴	読書	おけいこ事	勉強
6(9.4)	41(64.1)	62(96.9)	61(95.3)	44(68.8)	40(62.5)	29(45.3)	8(12.5)
15(6.9)	122(56.5)	183(84.7)	200(92.6)	157(72.7)	150(69.4)	71(32.9)	46(21.3)
6(4.3)*	71(51.4)	122(88.4)	133(96.4)	101(73.2)	97(70.3)	42(30.4)	24(17.4)
15(10.6)	92(64.8)	123(86.6)	128(90.1)	100(70.4)	93(65.5)	58(40.8)	30(21.1)
0	19(59.4)*	31(96.9)	32(100.0)	23(71.9)	20(62.5)	15(46.9)	4(12.5)
6(18.8)	22(68.8)	31(96.9)	29(90.6)	21(65.6)	20(62.5)	14(43.8)	4(12.5)
6(5.7)	52(49.1)*	91(85.8)	101(95.3)	78(73.6)	77(72.6)	27(25.5)*	20(18.9)
9(8.2)	70(63.6)	92(83.6)	99(90.0)	79(71.8)	73(66.4)	44(40.0)	26(23.6)
21(7.5)	163(58.2)	245(87.5)	261(93.2)	201(71.8)	190(67.9)	100(35.7)	54(19.3)

表17 親の幼児への期待像

幼稚園・性別	思いやりのある子	素直な子	責任感のある子	明るい子	友達の多い子	向上心のある子	活発な子	情操豊かな子	礼儀正しい子	積極的な子	協的な子	他人に左右されない子	独立心のある子
国立	56(87.5)	36(56.3)	33(51.6)	36(56.3)	19(29.7)	20(31.3)	7(10.9)	16(25.0)	11(17.2)	**12(18.8)	12(18.8)	* 3(4.7)	16(25.0)
私立	195(90.3)	123(56.9)	113(52.3)	111(51.4)	89(41.2)	43(19.9)	28(13.0)	59(27.3)	89(41.2)	41(19.0)	17(7.9)	29(13.4)	36(16.7)
男子	123(89.1)	69(50.0)	76(55.1)	66(47.8)	53(38.4)	29(21.0)	26(18.8)	**25(18.1)	**43(31.2)	29(21.0)	13(9.4)	13(9.4)	33(23.9)*
女子	128(90.1)	90(63.4)	70(49.3)	81(57.0)	55(38.7)	34(23.9)	9(6.3)	50(35.2)	57(40.1)	24(16.9)	16(11.3)	19(13.4)	15(13.4)
国立 男子	29(90.6)	14(43.8)	18(56.3)	18(56.3)	10(31.3)	7(21.9)	7(21.9)	6(18.8)	3(9.4)	8(25.0)	5(15.6)	1(3.1)	10(31.3)
国立 女子	27(84.4)	22(68.8)	15(46.9)	18(56.3)	9(28.1)	13(40.6)	0	10(31.3)	8(25.0)	4(12.5)	7(21.9)	2(6.3)	6(18.8)
私立 男子	94(88.7)	55(51.9)	58(54.7)	48(45.3)	43(40.6)	22(20.8)	19(17.9)	19(17.9)	40(37.7)	21(19.8)	8(7.5)	12(11.3)	23(21.7)
私立 女子	101(91.8)	68(61.8)	55(50.0)	63(57.3)	46(41.8)	21(19.1)	9(8.2)	40(36.4)	49(44.5)	20(18.2)	9(8.2)	17(15.5)	13(11.8)
合計	251(89.6)	159(56.8)	146(52.1)	147(52.5)	108(38.6)	63(22.5)	35(12.5)	75(26.8)	100(35.7)	53(18.9)	29(10.4)	32(11.4)	52(18.6)
関東合計	1063(88.1)	721(59.8)	710(58.9)	619(51.3)	477(39.6)	376(31.2)	360(29.9)	325(26.9)	244(20.2)	156(12.9)	132(10.9)	132(10.9)	101(8.4)

χ^2 検定 * $p < .05$, ** $p < .01$

以上の結果を、「現代児童の生活実態に関する研究」⁶⁾(東京を中心とした首都圏と関東の一部で行った調査、1～7歳児をもつ親1206名対象、昭和61年)の結果と比較したところ、数値の高い順に「思いやりのある子」は88.1%、「素直な子」は59.8%、「責任感のある子」は58.9%、「明るい子」は51.3%であり、これらはいずれも半数以上を示している。つづいて「友達の多い子」は39.6%、「向上心のある子」は31.2%で、以上、数値の高い6項目ではほぼ同じ割合であり、その他の項目においても、ほとんど同様の傾向がみられた。したがって、今回行った熊本市内の5歳児をもつ親の幼児への期待像は、熊本に限らず全国の親の特徴を示すものと考えられる。

ほとんどの親は子どもに「思いやりのある子」を望んでいることがわかる。現代社会においては思いやりの欠如が問われており、そうした社会的要請が親の子どもへの期待像にも反映している。また、過半数の親が「素直な子」、「明るい子」、「責任感のある子」を望んでいることから、親は子どもに「明るく素直で責任感のあるしっかりした子」になることを望んでいる。さらに、「情操豊かで友達が多く礼儀正しい子」を望んでいること等を総合的に考えると、共通点としていわゆる「好感の持てる子」を理想に描いているようである。反対に、「リーダーシップのある子」や「自己主張の強い子」等は低い割合であったことから、親はそのような「自我の強い子」は期待しておらず、周囲の人と協調できる幼児を期待していることがわかる。また、「勉強のできる子」や「まじめな子」、「おとなしい子」等もほとんどいなかったことから、親は「まじめでおとなしく勉強のできる子」は期待していないことがわかる。したがって、人間として基本的な要素である「思いやりがあり、明るく素直で責任感のあるしっかりした子」というのが親の幼児への期待像であり、そのような理想のもとに子どもを育てているといえる。また、大人や同輩と協調できる幼児を期待しており、自我独立心をもった幼児はあまり期待していないことがわかる。

性別にみると、「活発な子」は、男子が18.8%、女子は6.3%、「情操豊かな子」は、男子が18.1%、女子は35.2%、「探求心の旺盛な子」は、男子が16.7%、女子は5.6%で、1%の危険率で有意差が認められ、また、「独立心のある子」は、男子が23.9%、女子は13.4%で、5%の危険率で有意差が認められた。親は男の子には「独立心があり、活発で探求心の旺盛な子」、女の子には「情操豊かな子」を望んでいることが明らかになった。このように、親の子どもへの期待像は男女に

		(複数回答)											人 (%)	
探究心の 旺盛な子	コツコツ やる子	運動の 優れた子	男(女) らしい子	まじめ な子	リーダー のある子	ゆったり した子	冒険好 きな子	自己主張 の強い子	勉強の できる子	競争意欲 のある子	おとな しい子	慎重な子	不明	
7(10.9)	5(7.8)	1(1.6)	11(17.2)	2(3.1)	0	2(3.1)	4(6.3)	0	3(4.7)	1(1.6)	0	0	1(1.6)	
24(11.1)	11(5.1)	5(2.3)	20(9.3)	5(2.3)	9(4.2)	5(2.3)	8(3.7)	0	5(2.3)	7(3.2)	0	0	1(0.5)	
23(16.7)	11(8.0)	4(2.9)	18(13.0)	2(1.4)	4(2.9)	3(2.2)	9(6.5)	0	3(2.2)	6(4.3)	0	0	2(1.4)	
8(5.6)	5(3.5)	2(1.4)	13(9.2)	5(3.5)	5(3.5)	4(2.8)	3(2.1)	0	5(3.5)	2(1.4)	0	0	1(0.7)	
5(15.6)	4(12.5)	0	7(21.9)	1(3.1)	0	0	3(9.4)	0	1(3.1)	1(3.1)	0	0	0	
2(6.3)	1(3.1)	1(3.1)	4(12.5)	1(3.1)	0	2(6.3)	1(3.1)	0	2(6.3)	0	0	0	1(3.1)	
18(17.0)	7(6.6)	4(3.8)	11(10.4)	1(0.9)	4(3.8)	3(2.8)	6(5.7)	0	2(1.9)	5(4.7)	0	0	1(0.9)	
6(5.5)	4(3.6)	1(0.9)	9(8.2)	4(3.6)	5(4.5)	2(1.8)	2(1.8)	0	3(2.7)	2(1.8)	0	0	0	
31(11.1)	16(5.7)	6(2.1)	31(11.1)	7(2.5)	9(3.2)	7(2.5)	12(4.3)	0	8(2.9)	8(2.9)	0	0	3(1.1)	
101(8.4)	90(7.5)	84(7.0)	82(6.8)	74(6.1)	59(4.9)	41(3.4)	34(2.8)	34(2.8)	32(2.7)	21(1.7)	11(0.9)	9(0.7)	3(0.2)	

よって異なり、「男(女)らしい子」の項目では低い割合しか示さなかったが、無意識的に「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」育てたいと思っている親の姿勢が推察された。

要 約

幼稚園に通園する幼児の遊びと親子のふれあいについて、5歳児 216名を対象に調査を行ったところ、次のことが明らかになった。

1) 幼児は降園後、全体的には2～3人の小集団で3時間前後遊んでいた。国立の幼稚園児は近所に友達が少ないので一人遊びが多く、私立の幼稚園児は近所に友達がいるので、国立に比べ4～5人で遊んでいる割合が大きかった。また、私立より国立の幼稚園児の方が、遠くに遊びに行っているが、全体的には1 km以内の近所の友達と遊んでいた。

2) 幼児は比較的外で遊んでおり、男子は自転車等の乗り物遊び、女子はお絵描き、ままごとが多く、遊びに男女間の違いがみられた。また、遊び方と遊ぶ人数の間には関連性があり、テレビやファミコン等に夢中になりすぎると、友達との遊びの減少につながるということが明らかになった。

3) おもちゃの所有状況の高いのは、絵本、お絵描き道具、ボール、ブロックの順であり、幼児は様々なおもちゃを持っていた。

4) 親子は幼稚園の様子やできごとを話し合っており、休日は8割以上の父母が親子のふれあいをもっており、国立、私立の差は認められなかった。

5) 有職の母親でも、幼児とふれあう機会を多くもつように努力しており、幼児にとって母親の存在は大きいといえる。父親も努力している結果が見られるが、父親と幼児のふれあいは母親より少ないことがわかった。

6) 親は幼児に、人間として基本的な要素である「思いやりがあり、明るく素直で、責任感のあるしっかりした子」に成長することを期待していた。

引用・参考文献

- 1) J. ピアジェ (大伴茂訳) : 「遊びの心理学」 黎明書房, 258~261, 1967
- 2) 倉岡正雄 : 「フレーベル教育学概説」 建帛社, 212, 1982
- 3) R. カイヨウ (清水幾太郎, 霧生和夫訳) : 「遊びと人間」 岩波書店, 7, 8, 1975
- 4) 深谷昌志, 深谷和子 : 「モノグラフ・小学生ナウ 子どもの放課後」 福武書店, 12, 1987
- 5) 深谷昌志, 深谷和子 : 「モノグラフ・小学生ナウ テレビゲーム」 福武書店, 7, 1987
- 6) 日本総合愛育研究所 : 「日本総合愛育研究所紀要」 第23集 日本総合愛育研究所, 137, 1987
- 7) 岡田正章・森上史朗編 : 「保育基本用語事典」 第一法規, 1961
- 8) 文部省 : 「幼稚園教育要領」 1964
- 9) 文部省 : 「幼稚園教育指導書 一般編」 フレーベル館, 1968
- 10) 文部省 : 「中学校技術・家庭 研究の手引 住居・保育・栽培」 開隆堂, 112, 1981
- 11) J. ピアジェ他 : 「遊びと発達の心理学」 黎明書房, 1987
- 12) 石村高子 「ロータス1-2-3 R2. 1 J自由自在」 新紀元社, 1988

(1990年5月21日受理)